事業番号　2023 － 文科 － 新24 － 0016

令和5年度行政事業レビューシート　（文部科学省）

事業名	人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業			担当部局庁	研究振興局	作成責任者
事業開始年度	令和6年度	事業終了（予定）年度	令和8年度	担当課室	振興企画課	学術企画室長 名子　学
会計区分	一般会計					
根拠法令（具体的な条項も記載）	－			関係する計画、通知等	統合イノベーション戦略2023（令和5年6月9日閣議決定） 第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）	
政策	8　知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化			主要経費	科学技術振興費	
施策	8-2 基礎研究・学術研究の振興					
政策体系・評価書URL	－					
事業の目的（5行程度以内）	我が国の人文諸分野の学術機関が参画する協働体制を構築し、人文学分野の研究DX化を推進するとともに、人文学・社会科学の特性に応じた指標に基づき、我が国全体の人文学・社会科学の動向の調査・分析を行い、総合的・計画的な人文学・社会科学の振興のためのモニタリング手法の確立に資する。					
現状・課題（5行程度以内）	良質な学術データの開発・整備やネットワーク化、大量のデータを利用した研究の効率化・加速化や巨視的研究の実施、市民等のデータ利活用促進など、諸外国は人文学研究のデジタル化を積極的に推進している。「デジタル・ヒューマニティーズ」と称するこうした世界的動向への対応や「総合知」の創出に資する観点から、国内の学術機関の協働体制を構築し、分野に適したデータ規格のモデルガイドラインの開発やAI利活用研究の事例創出、人材育成プログラムの開発など、DX化のための基盤開発が必要となっている。また、総合的・計画的な人文学・社会科学の振興に向けて、我が国全体の人文学・社会科学の研究動向や研究成果を把握するためのモニタリング手法の確立が喫緊の課題であるところ、同分野では研究成果の主な発表媒体として、個人の研究成果を体系化した「書籍」が重要な位置を占めており、論文データだけでなく、書籍データを活用した研究動向や成果の調査・分析が必要となっている。加えて、社会・経済・文化等に中長期的・多面的に生じる人文学・社会科学の多様な社会的インパクトやSNS等を活用した成果発信等に係る指標についても検討が必要である。					
事業概要（5行程度以内）	我が国の人文系諸分野の研究DXを推進するため、国内学術機関で構成する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」を立ち上げ、協働体制を構築して、同分野の学術資源のデータ化にあたっての規格の調整やモデルガイドラインの策定・データ駆動型研究のユースケースの開発、データ資源（データ化された学術資源）の幅広い利活用促進、人文系諸分野の特性に応じたデータ構築・AI利活用研究等の方法論に通じた人材育成など、データ基盤の開発を推進する。併せて、我が国の人文学・社会科学の研究活動の成果をデータ分析により可視化・発信するための研究開発を実施する。					
事業概要URL	－					
実施方法	委託・請負					
補助率等	－					

予算額・執行額（単位:百万円）（インプット）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
予算の状況	当初予算(A)	－	－	－	－	239
	補正予算(B)	－	－	－	－	
					－	
					－	
					－	
					－	
					－	
	前年度から繰越し(C)	－	－	－	－	－
	翌年度へ繰越し(D)	－	－	－	－	
	予備費等(E)	－	－	－	－	
	計(F)=(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	－	－	－	－	239
執行額(G)		－	－	－		
執行率(%)=(G)/(F)		－	－	－		
当初予算＋補正予算に対する執行額の割合(%)=(G)/{(A)+(B)}		－	－	－		

令和5・6年度予算内訳（単位:百万円）

歳出予算項・目			令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由（・要望額・予備費）
(項)		研究振興費			重要政策推進枠239百万円
	(目)	科学技術試験研究委託費		238	
	(目)	職員旅費		0.6	
	(目)	委員等旅費		0.5	
	(目)	諸謝金		0.2	
	(目)	庁費		0.1	
		その他	－	▲ 0	
計(A)			－	239	

活動内容① （アクティビティ）	人文学分野における良質な学術データの創出に向けて、学術機関が参画する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」（DHコンソーシアム）を立ち上げ、分野内外のデータ規格の調整や国際規格対応を経た「データ規格のモデルガイドライン」を策定するとともに、これらの学術データに係るデータ駆動型研究の事例創出を進める。
↓	

活動目標及び活動実績①（アウトプット）

活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
「データ規格のモデルガイドライン」を策定するとともに、データ駆動型研究の事例創出を進める	「データ規格のモデルガイドライン」の策定とデータ駆動型研究の事例創出を進める領域数	活動実績	領域	－	－	－	－	－
		当初見込み	領域	－	－	－	－	3

↓ 成果目標①-1の設定理由 （アウトプットからのつながり）	本事業により創設するDHコンソーシアムにおいて、「データ規格のモデルガイドライン」の策定に学術機関の組織的な参画を得ることが、策定したガイドラインを研究コミュニティに普及・定着させていく上で極めて重要であることから、『学術機関が「データ規格モデルガイドライン」の策定に参画する』を長期アウトカムとする。

成果目標及び成果実績①-3（長期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度
学術機関が「データ規格のモデルガイドライン」の策定に参画する	「データ規格のモデルガイドライン」の策定に参画する機関数	成果実績	機関	－	－	－	－
		目標値	機関	－	－	－	6
		達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ

アウトカム設定についての説明

アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由
－
アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由
本事業は、事業実施期間である3年間をかけて、「データ規格のモデルガイドライン」を策定するとともに、データ駆動型研究の事例を創出することにより研究DXの推進を図ることを目的としているところ、その成果物が今後研究コミュニティに普及・定着していくためには、まずは核となる学術機関に本取組に参画していただくことが極めて重要であるため、『学術機関が「データ規格のモデルガイドライン」の策定に参画する』を長期的なアウトカムとして設定した。本事業では、事業終了年度である令和8年度において、上記の取組が完了するところであるため、令和8年度における長期アウトカムは前述のもののみとなる。

活動内容② （アクティビティ）	拠点機関が中心となって利活用に向けたネットワークを構築し、人文学のデータ資源の利活用に向けた実践を行うとともに、事例集や手引きを作成し、ホームページ・SNS等を通じて発信する。
↓	

活動目標及び活動実績②（アウトプット）

活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用に向けた実践を行う	ネットワークに参画し、人文学のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数	活動実績	機関	－	－	－	－	－
		当初見込み	機関	－	－	－	－	5

↓ 成果目標②-1の設定理由 （アウトプットからのつながり）	人文学のデータ資源の利活用推進に向け全国的な発信をするためには、多様な機関・団体等の参画を得て各現場が参考となる実践事例が創出され、利活用の手引きが作成されることが重要であるため、『ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される』を長期アウトカムとする。

成果目標及び成果実績②-3（長期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度
ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される	ネットワークに参画した機関・団体等における人文学のデータ資源の利活用件数	成果実績	件	－	－	－	－
		目標値	件	－	－	－	10
		達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ

アウトカム設定についての説明

アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由
－
アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由
本事業は、事業実施期間である3年間をかけて、人文学のデータ資源を利活用した実践及び事例集・利活用手引きを作成することとしているところ、その成果物が今後関係のステークホルダーに普及・定着していくためには、多様な機関・団体等の参画を得て各現場が参考となる実践事例が創出されることが重要であるため、『ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される』を長期的なアウトカムとして設定した。本事業では、事業終了年度である令和8年度において、上記の取組が完了するところであることから、令和8年度における長期アウトカムは前述のもののみとなる。

<table>
<tr><td>活動内容③
（アクティビティ）</td><td colspan="10">人文学の若手研究者や大学院生等を対象として、人文諸学の特性に応じたデータ構築やデータ駆動型研究の方法論に通じた人材育成プログラム（カリキュラム・テキスト）を開発する。</td></tr>
<tr><td>↓</td><td colspan="10"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">活動目標及び活動実績
③
（アウトプット）</td><td>活動目標</td><td>活動指標</td><td></td><td>単位</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>5年度
活動見込</td><td colspan="2">6年度
活動見込</td></tr>
<tr><td rowspan="2">「人材育成プログラム」の開発を行う</td><td rowspan="2">開発する「人材育成プログラム」の数</td><td>活動実績</td><td>件</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>当初見込み</td><td>件</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">1</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="10"></td></tr>
<tr><td>↓ 成果目標③-1の設定理由
（アウトプットからのつながり）</td><td colspan="10">人文学分野の研究DXに向け、開発した「人材育成プログラム」の受講者を着実に増やしていくことが重要であるため、『開発した「人材育成プログラム」を若手研究者等が受講する』を長期アウトカムとする。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">成果目標及び成果実績
③-3
（長期アウトカム）</td><td>成果目標</td><td>定量的な成果指標</td><td></td><td>単位</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td colspan="3">目標最終年度
8 年度</td></tr>
<tr><td rowspan="3">開発した「人材育成プログラム」を若手研究者等が受講する</td><td rowspan="3">開発した「人材育成プログラム」を受講した若手研究者等の人数</td><td>成果実績</td><td>人</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>人</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="3">30</td></tr>
<tr><td>達成度</td><td>%</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績</td><td colspan="10">実績報告書及び文部科学省調べ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">アウトカム設定についての説明</td><td colspan="10">アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由</td></tr>
<tr><td colspan="10">－</td></tr>
<tr><td colspan="10">アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由</td></tr>
<tr><td colspan="10">人文学分野の研究DXの推進に向けては、当該「人材育成プログラム」の受講者を着実に増やし人文諸学の特性に応じたデータ構築・AI利活用研究等に通じた人材を増やしていくことが本事業の全期間にわたって一貫して重要であることから、『開発した「人材育成プログラム」を若手研究者等が受講する』のみを長期的なアウトカムとして設定した。</td></tr>
</table>

活動内容④ （アクティビティ）	「書籍」を対象として、我が国全体の人文学・社会科学の研究活動の成果を可視化するモニタリング手法の研究開発を行う。
↓	

活動目標及び活動実績④（アウトプット）	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度活動見込	6年度活動見込
	「書籍」を対象として、研究活動の成果を可視化するモニタリング手法を調査・分析する	「書籍」を対象として、モニタリング手法の調査・分析を行う機関数	活動実績	機関	－	－	－	－	－
			当初見込み	機関	－	－	－	－	2

↓	成果目標④-1の設定理由（アウトプットからのつながり）	「書籍」を対象として、我が国の人文学・社会科学の研究力や動向を把握するためには、そのモニタリング手法の調査・分析を進め、まずはモニタリング手法を開発することが重要であるため、『「書籍」を対象として、研究活動の成果を可視化するためのモニタリング手法を開発する』を短期アウトカムとする。

成果目標及び成果実績④-1（短期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7 年度
	「書籍」を対象として、研究活動の成果を可視化するためのモニタリング手法を開発する	「書籍」を対象として開発した、研究活動の成果を可視化するモニタリグ手法の数	成果実績	件	－	－	－	－
			目標値	件	－	－	－	2
			達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ

↓	成果目標④-2の設定理由（短期アウトカムからのつながり）	最終的には、モニタリング対象として開発した指標を活用して、我が国の人文学・社会科学の動向を把握し、その振興施策の検討の参考とすることが重要であるため、『「書籍」を対象に、モニタリング対象として開発した指標に基づく分析結果を、人文学・社会科学の振興施策の検討の参考とする』を長期アウトカムとする。

成果目標及び成果実績④-3（長期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度
	「書籍」を対象に、モニタリング対象として開発した指標に基づく分析結果を、人文学・社会科学の振興施策の検討の参考とする	モニタリング対象として開発した指標に基づく分析結果の報告数	成果実績	件	－	－	－	－
			目標値	件	－	－	－	2
			達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ （※なお、我が国の人文学・社会科学の研究活動の成果の可視化に係るモニタリング指標については、科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会におけるとりまとめにおいて、「書籍」のほか、「国際ジャーナル論文」「国内ジャーナル論文等」「プレプリント」が提示されており、政策としてはこれらを総体的取り扱う予定。）

アウトカム設定についての説明	アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由
	－
	アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由
	－

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等		
	名称	–
	URL	–
	該当箇所	–

事業所管部局による点検・改善

		目標年度における効果測定に関する評価（令和8年度実施）
点検結果	事業の実施に当たっては、公募の際に提案内容の妥当性を確認しながら選定するなど、効果的な事業の実施に努める。	–
改善の方向性	事業経費の効率的な執行を図りつつ、事業目的の達成に向け、効果的な事業成果が得られるように努める。	

外部有識者の所見

外部有識者点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見

	事業目的の達成に向け、効率的な予算執行を図り、費用対効果の向上等に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

	–

過去に受けた指摘事項と対応状況	
	公開プロセス・秋の年次公開検証（秋のレビュー）における取りまとめ
	–
	上記への対応状況
	–
	その他の指摘事項
	–
	上記への対応状況
	–

備考

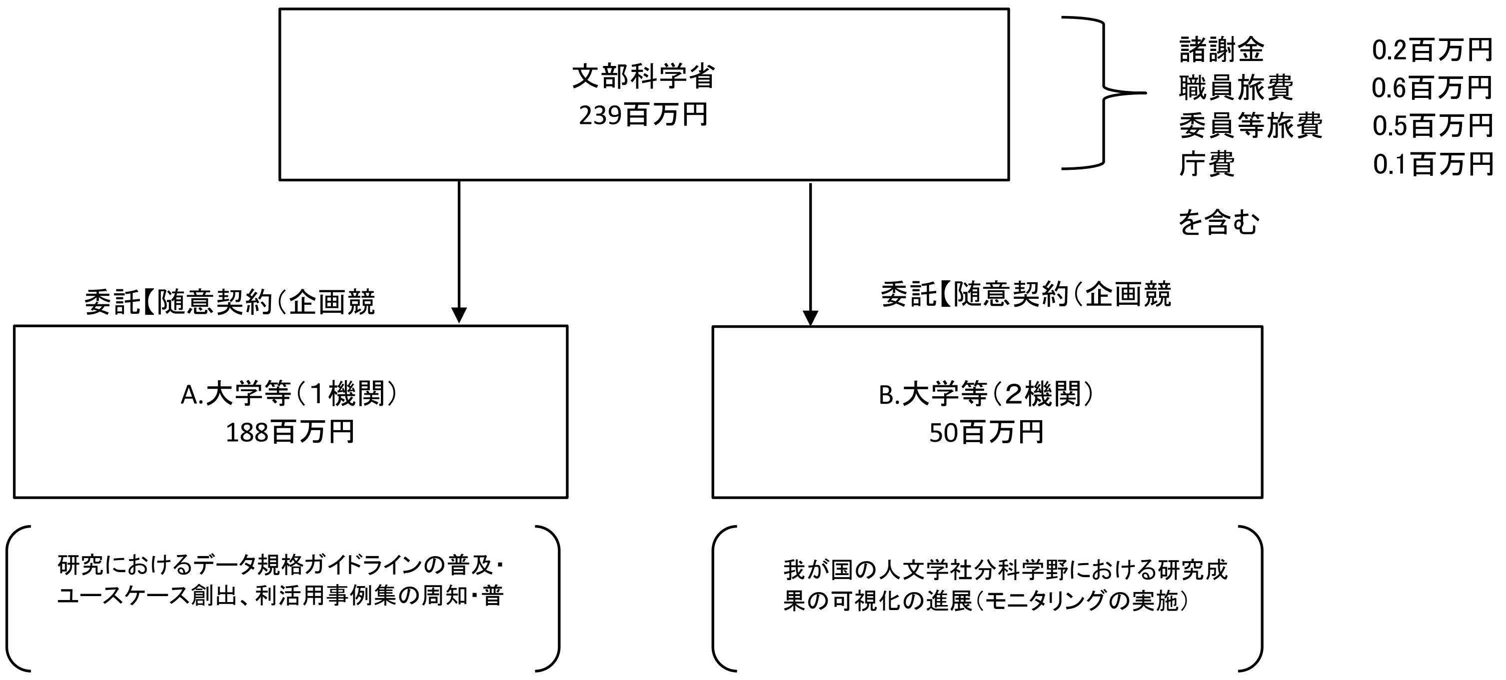
–

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				
平成28年度				
平成29年度				
平成30年度				
令和元年度				
令和2年度				
令和3年度				
令和4年度				

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。



費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載	チェック	